

# 令和5年度 伊那市立富県小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<b>自立共同の力を高める子ども</b>  ○よく考え、やりぬく子ども ○仲良くみんなと支え合う子ども ○いつも明るくじょうぶな子ども	「自立(自主性 責任感 実践力)」「共同(相手意識 協力)」「基本的資質(体力 意思力)」の柱を基本に、人間性豊かで心身共に健全な児童の育成を、具体的な教育活動(学級作りと教科指導)を通して取り組む。
	今年度の重点目標
	(1)伝え合い(心を寄せて聞いたり話したりできる)
	(2)認め合い(個性尊重・寛容の心を育てる)
	(3)心・からだづくり(意欲をもち継続できる)

総合評価		
○学校全体としては、子どもたちは落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。児童アンケートでは「学校生活は楽しいですか」の質問に対して、低学年は100%が、高学年は87%が肯定的な評価をして、保護者アンケートでも同内容の質問に対して96%が肯定的な評価をしている。「児童会活動に進んで取り組んでいる(高学年アンケート)」の質問には97%が、「楽しみにしている行事がある」の質問には90%が肯定的な評価をしており、諸活動に前向きに取り組んでいる児童の様子が見える。		
○一方で、個々の児童を見ると、学習への苦手意識や、対人関係づくりの未熟さから、教室に入りづらいと感じている児童が数名いる。校内支援会議の開催、外部機関との連携、スクールカウンセラーの活用、定期的なケース会議などを進める中で、困り感の解消につながっているケースもあるが、今後も子どもに寄り添った指導を継続していく必要がある。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 友だちの考えを聞き、自分の考えを見返し、対話を通して表現力を高められるように取り組んできた。児童のアンケートでは、96%が「友だちの意見を聞いている」と回答しており、聞く態度が身につけている。また、81%の児童が「自分の考えや意見を友だちに言ったり、伝えたりしている」と回答している。聞くに比べると、話すことに苦手意識をもっている児童が数名いるのかもしれない。	B b	○話すことのはじまりはあいさつなので、今後もあいさつを大事にしていきたい。今年度は、昨年度よりも朝のあいさつが増えてきている。児童会、PTAであいさつの活動を行っている。そこに職員も加わって子ども・PTA・職員で連携して取り組んでいきたい。そして、話すことを苦手としている子どもは、どこがつまづいているのか(聞くことができない、聞かれた内容がわからない、思いと言葉が繋がらない、表現方法がわからない、など)子どもに寄り添って把握していきたい。
(2) 今年度行われた学校人権教育連絡協議会の授業公開を機に、人権教育の学習を深めてきた。児童アンケートでは、98%が「友だちの嫌がることをしないようにしている」、99%が「困っている友だちを助ける」と回答しており、互いに相手のことを思いやる学校生活を送ることができている。	A a	○今後も人権教育を中心にクラスづくりをしていきたい。クラスの雰囲気が学校生活の基本となるので、職員自身の人権感覚を磨き、子どもたちにとって居心地のよい学級運営をしていく。普段から一人ひとりにも気を配り、定期的にアンケートや面談を実施して、早めにその子どもの困っていることに気づけるようにしていく。
(3) 児童会活動を中心に、健康に関わる意識を高める取り組みをしてきた。保護者アンケートでは、21%の保護者が「健康管理や体力向上の取り組みに努めていない」と回答し、昨年度より7%増えた。行事の精選でマラソン大会がなくなり、目立つような体づくりへの取り組みが伝わっていないのではないかと考える。	B B	○体力テストの分析をして、児童の実態に即した体づくり運動や今年度取り入れたコーディネーショントレーニングを体育集会や体育の授業の中で、体づくりとして取り入れていきたい。また、児童会と一緒に体を使って活動できる企画を考えていきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○体験を通して学ぶ、総合的な学習や教科学習等	○富県ならではの学習や地域素材、栽培活動、農業体験活動、調理活動などの体験活動を重視した生活科、総合的な学習、食育等に取り組む、富県小の特色ある学習を展開してきたか。
		○児童同士や地域との「かかわり」を取り入れた教育活動	○「地域の方から学ぶ」「地域の方とかわる活動」を取り入れた教育活動を展開したか。 ○縦割りなかよし班での学校行事や児童会活動が展開できたか。
	学習指導	○授業における「伝え合い」	○友だちとの対話を通して、互いに考えを深め合う授業ができていたか。
		○児童中心の分かる授業	○ねらいを明確にした授業、子どもの主体性を促す授業展開などにより、子どもたちにとって「わかる授業」になっていたか。
	生徒指導	○一人一人の児童に寄り添った、適切で迅速な指導	○職員間での情報交換、児童との対話により児童理解に努め、家庭と連携しながら迅速な指導ができたか。
		○日常的に人権感覚を高める指導と、いじめ防止のための取組	○子どもたちの良さを認め、温かみのある学級作り、人権教育や道徳教育への積極的な取り組みにより、日常的に人権感覚を高める指導ができたか。 ○いじめの早期発見、対応、再発防止に取り組んできたか。
学校運営	安全	○児童の登下校の安全確保	○日常の通学指導や定期的な街頭指導、えがおみまもり隊の活動により、子どもの登下校の安全確保に努めたか。
	地域との連携	○学校と地域、保護者との協力体制の構築	○保護者や地域の方と協働体制の構築を進めたか。 ○学級だよりや学校だより等で学校の様子を積極的に知らせたか。
	研修	○よりよい授業のための授業研究	○一人一公開や模擬授業、授業研究会を通して、授業力向上の図ることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○とみがたっ子応援団(コミュニティースクール)の皆さんに協力していただき、23年は大豆栽培、4年は小麦栽培を行った。保育園児とも共同作業する場を設け、保育園児との交流の場もなった。2年連続で大豆の収穫がうまくいかなかったため、地域の方と相談して、栽培方法を考えていきたい。	A B	○富県ならではの学習や特色のある活動については、生活科や総合的な学習の中核に位置付けて、今後も地域の方(保育園児や高校生も含む)との交流を各学年、学校全体で取り組んでいく。栽培活動は、伊那市でも食育に力を入れている、自校給食につながることで、生活や総合だけでなく、家庭科などの学習とも関連させて、子どもたちに食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくようにしていきたい。
○保護者のアンケートでは、87%が「地域と連携して教育活動をしている」と回答した。児童のアンケートでは、96%が「なかよし班の人と協力しながら活動している」と回答した。それぞれの学年で、高校生や保育園児、地域の方々、そして校内異学年と出会う場を設けて活動してきたことが、子どもたちや保護者への理解につながってきている。	A a	○職員がさらに地域を見つめることができるように、外部人材との連携で地域の方から学ぶ場を増やしていく。地域の方々との交流の場を増やしていきたい。応援団の皆さんに協力していただきながら、地域の人材を見つけていきたい。 ○児童会中心になかよし班で活動する場を多くしたり、清掃を縦割り班で行ったりしていきたい。
○教師同士が、「いつでも見に来ていいよ」「いつでも見に行くよ」といった気軽に授業を見合う環境にした。その中で、3~4人でのグループやペアによる課題解決型の授業を積極的に進めてきた。保護者アンケートでは、88%が「友だちの意見を聞いて考えを深めたり、思考したりする授業を心がけて授業をしている」と回答している。	A a	○今年度に引き続き、授業の中で自分の考えや思いを伝え合う場面を位置づけたり、グループやペアによる課題解決型の学習を進めたりしていく。また、グループやペアでない子ども同士の考えや思いがわかるように、ICT機器なども活用していく。
○児童アンケートでは95%、保護者アンケートでは81%が、「授業がわかりやすい」と回答した。1~2割の子どもたちが、授業への困り感を持っているのではないかと考える。このような子どもたちに対する手立てを考えていかなければならない。	B b	○授業への困り感をもっている子どもに対し、その子の特性に寄り添って指導していく。学級一斉の課題を与えるのではなく、その子の特性に応じて課題を変えていく。そのために、個に対応した課題を設定したり、指導や支援をしたりしても、理解し認められる学級づくりをしていく。
○児童アンケート「嫌なこと困ったことを先生に相談できる」では、91%の児童が肯定的な回答しており、保護者アンケート「お子さんについて気軽に相談できる雰囲気がある」では、82%の保護者が肯定的な回答をしている。引き続き、日頃から子どもや保護者と相談する体制づくりを維持する必要がある。	A B	○定期的に子どもの話を聞くために、子どもたちと相談する時間、相談週間をつくる。日頃から子どもが相談しやすい雰囲気をつくるために、子どもの活動の中に職員と一緒に活動していくようにしていく。また、保護者には、懇談会だけでなく、気軽に相談できる体制を図っていく。
○児童アンケート「困っている友だちがいたら助けてあげようと思いますか」では、99%、「先生は自分のことを褒めたり叱ったりしてくれる」では96%の児童が肯定的な回答をした。道徳で他者意識を高める授業を展開しており、子ども同士で、または、教師から相手のよさを認め合う場がそれぞれの学級できている。 ○年2回の「学校生活アンケート」を実施して、いじめに関することを中心に調査してきた。アンケートを行った後、子ども一人ひとりと面談をして、いじめの早期発見に努めた。	A a	○指導すべきことは指導するとともに、その子のよさを見つけ、その子に共感しながら思いを受けて止めていくようにする。 ○今後も子どもとの信頼関係を築き、普段の生活の中からの相談や定期的にアンケートをとり、子どもと相談する日を設け、いじめの早期発見に努めていく。
○保護者アンケート「子どもの安全について家庭や地域と連携した取り組みをしている」では94%の保護者が肯定的な回答をした。学校だよりで地域の方に下校時刻を知らせ、地域の方に下校時刻には外に出て子どもたちを見守るようにお願いしてきた。	A A	○PTA 校外指導部を中心に、通学路の安全点検を行っていただき、PTA や地域の方と協力して、安全についての指導を継続し、安全な登下校ができるようにする。また、「えがおみまもり隊(登下校の見守り隊)」との交流もしていきたい。
○保護者アンケート「地域と連携した教育活動」では87%の保護者が肯定的な回答をした。PTA やとみがたっ子応援団を中心に、学習ボランティア、読み聞かせ、高島谷遠足、キャリア学習会などの活動を行ってきた。 ○保護者アンケート「担任や学校からのお便りなどで子どもの様子がわかる」では91%の保護者が肯定的な回答をした。本年度、ホームページの運用がうまくできなかったため、来年度に向けて準備していく必要がある。	B b	○地域の方に子どもたちの授業を見ていただく日を設けたり、子どもたちの学習活動を支えていただくボランティアを募集したりして、地域の方が学校に足を運んでいただく機会をつくる。 ○今後も学級だよりや学校だよりを中心に保護者や地域の方に学校の様子を伝えていくとともに、ホームページの有効活用も行っていく。
○本年度は、算数や人権教育の授業をお互いに見合う機会が多かった。全校のテーマを「子どもたちが 自分の思いや考えを伝え合いながら お互いに学び合うすがたをめざして」とし、①お互いに自分の意見を伝え合う場を設定する、②子どもたちが自ら	A	○来年度も公開授業を中心にお互いの授業を見合いながら授業力の向上を図っていききたい。そのためにも、職員が一つになってテーマを考え、全体で共通して取り組んでいくことを決めだしていきたい。

		○教職員としての資質向上のための研修	○校外研修への参加・伝達、校内研修の充実により教職員としての資質の向上を図ることができたか。	学び合っている学習環境の工夫を普段の授業の中に取り入れてきた。	a	
				○積極的に校外研修のお知らせをしてきた。校外研修が終わった後、研修で学んだことを全職員に広げるために、職員会議の中で報告できる時間を設けてきた。地域の方を招いて職員の地域学習を行ったが、地域のひと・もの・ことについては、職員がまだまだ知らないことが多いように思われる。	A b	○地域の外部人材を探っていきたい。とみがたっ子応援団の皆さんを中心に声をかけていく。また、外部の研修にも積極的に参加できるように、職員へ声がけや職員体制をつくっていきたい。